

<p style="text-align: center;">保健・体育 (Health and Physical Education ) [比較スポーツ文化論] (Comparative Studies on Sports Culture)</p>		<p style="text-align: center;">5年・前期・1学修単位( )・必修 機械工学科：竹村匡弥 電気、電子制御工学科：中西茂巳 情報、物質化学工学科：松井良明</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 ( 1 )</p>	<p style="text-align: center;">〔システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標〕 A - 1 ( 70% ) A - 2 ( 30% )</p>	<p style="text-align: center;">〔 JABEE 基準 〕 ( a )( b )</p>	
<p>〔 講義の目的 〕 第3学年までに習得した「保健・体育」の基礎学力、および第4学年で学修した種々のスポーツ文化に対する知識や技能をいっそう高めるとともに、スポーツ文化の比較研究を通して、その多様性と具体的な取り組み方法について学ぶ。また、種目選択性を導入することにより、自主的に運動を楽しむ態度やそれに伴う社会的責任について考える力を養う。</p>			
<p>〔 講義の概要 〕 なおいっそうの相互の協調性や社会性の向上をはかるために、班別対抗のゲームや個々の希望に即した種目の実技指導を中心とする。</p>			
<p>〔 履修上の留意点 〕 実技科目であるので、日頃から健康管理に留意するとともに、運動時の服装や履物などについても各自できちんと用意すること。</p>			
<p>〔 到達目標 〕 主体的にスポーツ文化を享受し、運動を楽しむ態度を身に付ける。また、生涯スポーツの実践者としての資質や能力を養う。</p>			
<p>〔 評価方法 〕 各技能の習熟度 ( 20% ) レポートの執筆及び表現された内容の完成度 ( 20% ) 実技課題への全般的な取り組み状況 ( 60% ) を総合して評価する。</p>			
<p>〔 教 科 書 〕 『保健体育概論 新版』近畿地区高専体育研究会編、晃洋書房</p>			
<p>〔 補助教材・参考書 〕</p>			
<p>〔 関連科目及び補足 〕 次頁の講義項目の順序については記載どおりとは限らない。天候などの事情により、適宜変更される可能性があるため、体育委員が毎回調整及び連絡の役目を果たしてほしい。また、定期試験は実施しない。各時間における授業への取り組み状況とその積み重ねを重視する。</p>			

## 講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	体力・運動能力調査	文部科学省が定める「新体力テスト」を実施する。	
第2週	同上	同上	
第3週	ソフトボール	4年次までの習得した技能を生かし、ゲームを中心に実技を行う。	
第4週	バレーボール	同上	
第5週	バスケットボール	同上	
第6週	バドミントン	同上	
第7週	テニス	同上	
第8週	サッカー	同上	
第9週	卓球	同上	
第10週	選択制	自ら種目を選択することにより、スポーツを愛好する態度を育む。	
第11週	水泳（水球等）	4年次までの習得した技能を生かし、ゲームを中心に実技を行う。	
第12週	選択制	第10週と同じ	
第13週	選択制	同上	
第14週	選択制	同上	
第15週	まとめ		

\* 4：完全に理解した， 3：ほぼ理解した， 2：やや理解できた， 1：ほとんど理解できなかった， 0：まったく理解できなかった。  
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)